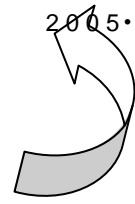


2005・6・14

右肩上がりの上昇



信金中金の「優先出資証券」

知る人ぞ知る高利回りの“株”

新聞の株式欄の端のほうに小さく載っている「優先出資証券」。会社名が表示されていないこの株は何なのだ」と疑問を持った人もいるのでは？これが知る人ぞ知る信金中金発行の優先出資証券です。隠れた高利回りの“株”として、一部の人にはよく知られています。ここ2,3年は右肩上がりの上昇を続け、配当も一定しており、配当利回りはここ数年、2.6%から3%台。東証1部の全銘柄の平均配当利回りが1,17% (昨年7月末)ですから、かなり有利です。知っている人は知っている、知らない人は覚えてね」なんてテレビCMがありますが、株に興味のある方なら、知っていたほうがおトクでしょう。



わずか1年で1口6万円のもうけ

昨年6月に46万円(1口)でこの優先出資証券を5口購入した高槻市のAさん(62)は言う。

「同じ時期に買った電機など他の株は、まもなく下がり始め、最近になってようやく、元に戻り始めたところだが、優先出資証券のほうは1年間で6万円も上がって52万1千円(6月14日終値)になった。着実な値上がりでありがたい」とうれしそう。

もっとも、「今回も配当は例年通り1口あたり1万3,000円でしょう。株価は上がってゆくのに配当額が毎年一定では、配当利回りが悪くなる。以前のように利回り3%を維持するため、配当を1万6,000円に上げて欲しいですね」と欲を出しながらも満足そう。



優先出資証券発行の信金中金は、高い格付けの機関投資家

優先出資証券というのは要するに、株と同じと考えられます。

正確に言うと、「協同組織金融機関の優先出資に関する法律」に基づいて、同金融機関が発行する証券取引上の有価証券、になります。

信金中金（信金中央金庫）は、全国の信用金庫を会員とするこの協同組織金融機関です。全国 306 金庫から余裕資金を預金として集め、その資金でリスクの少ない金融商品を中心に投資、運用しています。2004（平成 16）年 6 月末で総資産は 29 兆 2,585 億円。わが国屈指の機関投資家でもあります。日本格付け研究所は AAA、格付投資情報センターは AA、そして、ムーディーズが A1 など、世界の格付機関から高い評価を得ています。

優先出資証券の優先とは、議決権は無いが、配当は優先的に行われる証券で、剰余金の支払いは、普通出資者に対する配当に先立って、あらかじめ定められた額が優先配当されます。株に優先株、普通株、劣後株などがあるのと似ています。株ではないので 1 株と言わず 1 口と数えます。



2000 年から東証一部に上場

なぜ、こういう証券ができたかといいますと、信用金庫や信金中金は一般の会社のように株を上場して、外部資本を導入することができません。そこで、一般投資家を含めた外部の資本を入れて、信用金庫などの自己資本を充実させようと旧大蔵省が認めたもので、信金中金は 2000（平成 12）年に、初めて優先出資証券を発行して東証 1 部に上場、公募しました。売買方法や税制については基本的に株式と同じで、証券会社を通じて、売買できます。

2000 年の発行以来の価格の変遷は以下の表の通りです。

当初は 42 万円ほどの値段でしたが、以後、ゆっくり下がり、値を戻したところでまた、ダウンしました。銀行の不良債権問題への心配や株式市況の低迷が続いて、銀行株全体が下落したのに連動したと見られています。



2002 年からはほぼ、上がりっ放し

しかし、2002 (平成 14) 年 6 月は約 38 万円、2003 年 6 月に約 42 万円、昨年 6 月は約 46 万円、そして今は 52 万 1000 円 (6 月 14 日終値)。ここ 3 年はほぼ、着実に値上がりが続いています。

配当のほうも 1 口あたり 1 万 3000 円 (平成 11 年のみ創立 50 周年記念配当で 1 万 4000 円) で安定しており、「今後も 10 年くらいは 1 万 3000 円を維持できる準備金を持っている」と言われています。

配当利回りは 1 口あたりの値段が上がっているため、自動的に下がっています。しかし、それでも 1 万 3,000 円を 50 万円で割ると 2.5%。東証 1 部の全銘柄平均配当利回りが 1.17% (平成 16 年 7 月末現在) であることを考えると、まだ倍以上の高い利回りです。

金利が低く、大企業が好業績を上げている割に日経平均株価はなかなか、上昇しません。年内には上昇に転じるとの見方が多いようですが、中国やインドなどの経済発展の中で、原油等の資源は高止まりの不安があるなど、不安定要因をかかえたまま。それだけに、安定度の高いこの優先出資証券に人気が集まるのでしょうか。



配当課税の優遇措置も

信金中金の優先出資証券の売買単位は 1 口から。配当は 3 月末の所有者に年 1 回支払われます。6 月末の普通出資者総会で正式に決まり、そのあと、口座

振込み、郵便振替によって受け取ることができます。

税金は、株式と同様、新証券税制で配当課税の優遇措置があり、これも人気の一因のようです。

信金中金では機関投資家などだけでなく、個人投資家への I R (investor relations) 活動を積極的に展開しており、売買も広がっています。

日経新聞の優先出資証券・信金中金株価欄

(2005・6・14 付け)

新聞によって掲載場所などが少し異なります

*なお、上記の記事は購入を勧誘するものではありません。信金中金の優先出資証券は現在、順調な動きが続いていますが、今後の経済情勢の変化で、どのように変わるかわかりません。株式と同様、リスクを伴うものであることにご注意下さい。

株大阪彩都総合研究所
主任研究員 橋本 剛